

平成 29 年度

第 1 回

教育課程編成委員会報告書

学校法人長野県理容美容学園

長野理容美容専門学校

第1回教育課程編成委員会 報告書

日時：平成29年10月24日（火）10：30～

場所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者：s o r a 伊藤秀一先生 スタジオ エーワン 小出誠司先生
松林校長 柏原教務主任 中澤主任

理事長より

文部科学省認可の職業実践専門課程の認定をいただくとともに、少しでも現場の即戦力になるようまた、業界の発展のためにも人材のレベルを高くするべく学生の人材育成を行っている。県外専門学校への流出・他業種との比較・就職志望者の増加・近隣の大学や短大への進学などで、美容系進学者が減ってきているが、業界の魅力向上の一端として、現在の県内初任給のベースアップを図っていただきたいと思っている。県外に流される学生もいるのでお二人の先生のご意見を聞きながら、地域サロン発展とともに、学生の教育レベルを上げ、信用を培っていききたいのでご協力賜りたい。

【議 事】

1. 校長挨拶

自己評価委員会、学校関係者委員会などの会議とともに、今回の教育課程編成委員会も職業実践専門課程の認定にむけての重要な会議である。今後の業界の発展、即戦力の人材育成にむけ、お二人の先生の忌憚ないご意見をお聞かせいただきたい。来年度例年通りの新入生を迎えることができそうである。推薦入試の面接の中で、美容師さんにあこがれてという志望理由が多く、地元サロンの先生方に支えられていると感じる。サロンと学校が同じ方向に向かい連携を取り合い、ともに喜び合えるように活動していきたい。

2. 委員紹介

自己紹介と合わせて一言いただく。

伊藤 秀一	S o r a 代表取締役	
小出 誠司	長野県美容業生活衛生同業組合 国家試験委員	
松林 真紀	長野理容美容専門学校	校長
柏原公美子	長野理容美容専門学校	教務主任
中澤佐和子	長野理容美容専門学校	美容科主任

ここ10年で業界の流れも、学生の質も変わってきている。どちらの情報もお互いに仕入れつつ、美容業界への希望者の確保と、他業種への職業変更のくい止めをし、業界の発展に繋げていけるよう目標確認を行った。

3. 教育課程編成委員会設置の説明と業務の概要説明

4. 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規定について

5. 教育課程編成委員会会則について

6.2 8年度自己評価点検・自己評価・学校関係者委員会報告について

自己評価点検・自己評価に基づき、学園の教育方針についての説明と、28年度の評価③の部分について説明

また、それをもとに29年度の重点目標と、今現在の改善できた点について説明
学校関係者委員会の報告とともに、学校関係者委員による今後の課題と提案

7.教育課程の現況

・カリキュラム

今現在のカリキュラムと、30年度からの法の改定に伴い改正された部分と、即戦力になりうる人材育成にむけて、新たに加える授業内容について説明

・職業実践専門課程の推薦科目について説明・協議

学生への指導を職員とともに行っていただく業界の方の依頼予定案を提示。今後検討していく。

8.学生の現況

・在籍学生と2学年の就職内定者数を報告

就職内定者の決定時期が早くなってきているのは、キャリア教育の充実が考えられる。セイファートの就職講習会を早い段階から行っており、今年度1学年に向けてはすでに3回行う予定である。業界につなげるために、美容の楽しさを伝えるようにしている。“辞めさせない”という統一意識で1学年職員が取り組んできた。盗難など学校に対する不信感がないように注意し、悩んでいること、負担に思っていることが軽減できるよう、クラスの垣根を取り払い、どの先生にでも相談できるよう取り計らった。放課後の居残りなどにも、先輩の声掛けが効果的であり、先輩とのつながりを持つ機会も増やしていきたい。ADHDの学生や外国籍の学生、入金困難な学生、通信制からの学生など、上下差がかなりある。担任1人の負担が大きいのが現状である。しかし、職員が連携をとりそれぞれの状況に対策を講じてきている。

以上を踏まえて

- ① 学校への不信感を取り除き“辞めさせない”という統一意識
 - ② 精神面の支え(個人を認める・夢のある内容を伝える)
 - ③ 単位制になったところへの教育の安定化
 - ④ 学校という囲いの中で終わらないよう、業界に繋げていく
 - ⑤ 国家試験、資格試験を全員取得
- を今後も目指していく予定である。

9.業界の現況

伊藤先生より 学校の先生方も本当に学生のためによく考えられ、技術向上にも力を注ぎ、大変だと感じている。

新卒の様子を見てみると、素直で言われたことに対して従順である。察して考えられないということであるが、逆に1年目が乗り切れれば2年目も続けられるので、カリキュラムの中で考えさせないようにしている。学生時代の強い横のつながりに対して弱い縦のつながりということはよくわかる。年上のお客様に対しての対応力は早めに身に付けていかせたほうがよい。お金を払って教えてもらっている学生時代から、お金をいただいてお客様と接していくという意識の切り替えをさせな

いといけない。その人それぞれに違いがあるので、一人一人に合う先輩をつけている。少子高齢化が進んでいる中、必然的に美容師のなり手が減ってくるのが目に見えている。美容師の福利厚生や、保険など待遇の良い仕事環境に整えていく必要があると思う。

小出先生より 国家試験の採点が技術においては優しくなった。今の世の中自体が若い人たちを守っているという印象がある。まさしく横のつながりが強く、裕福な生活というより楽しく過ごそうという感覚の若い人が多い。質を上げて給料が上がるように頑張ろうというよりは、楽しく仕事しようという様子である。1年目でやめてしまう人がいるが、最初の就職先が大変重要である。大手のチェーン店の特徴、個人のサロンの特徴など情報収集と自分の目標をすりあわせて就職選びをしていければいいのではないか。その点においても、セイファートセミナーは大変良い企画と思われる。また、接客業であるのだからお客様に対してのコミュニケーションや、先輩に対しての対応力が大変大事である。先輩も様々な先輩がいるので、そういった中でも観察力や、洞察力をつけていくのも必要だと思われる。またお客様に褒めていただくと、次のやる気につながっていくのでそういった経験ができる機会を与えてあげる必要がある。

«まとめ»

カット及びカラーなどでサロンが参加しながら教育していくに当たりサロン側として、学校の先生方にはサポートを、学生に対しては憧れと美容は楽しいという気持ちを育むお手伝いであるという意識統一をしていきたい。すでにカット講師の先生方は学校招集以外でも打ち合わせを行っていく計画を立てている。また学生にとっての、直接携われるようなヘアフェスティバルやヘアショーなどの機会を増やしていったほうがよい。

就職してから何もできない期間というのは、つまらなくなってしまうがちである。内定してからの期間をシャンプー練習など、学校生活に支障のない程度に行っていくのはどうか。

10、施設見学

次回予定 第2回教育課程編成委員会 平成30年3月 26日(月) 10:00~

平成 29 年度

第 2 回

教育課程編成委員会報告書

学校法人長野県理容美容学園

長野理容美容専門学校

第2回教育課程編成委員会 報告書

日 時：平成30年3月7日（水）14：00～

場 所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者：s o r a 伊藤秀一先生 スタジオ エーワン 小出誠司先生
松林校長 柏原教務主任 中澤主任

【議 事】

2. 校長挨拶

平成29年度の自己点検を行い、自己評価委員会と学校関係者委員会を経て今回の教育課程編成委員会に至っている。前回の教育課程編成委員会においてもお二人の先生には貴重なご意見をいただき、教育活動に反映するよう努めている。今回は自己評価委員会と学校関係者委員会のご報告が主な議題になるが、前回同様お二人の先生には、より実践的で学生にとって魅力ある教育内容になるよう忌憚ないご意見をお聞かせいただきたい。

2. 自己評価委員会、学校関係者委員会報告について

平成29年度自己評価点検・自己評価と平成30年度の重点目標

学校関係者委員会の報告とともに、学校関係者委員による今後の課題と提案

3. 職業実践専門課程の推薦科目について(中間報告)

・職業実践専門課程の推薦科目について説明・協議

学生への指導を職員とともに行っていただく業界の方の依頼予定案を提示。今回新たにコミュニケーションの導入を検討。コミュニケーションは接客業として大変重要な教育であるので、職業実践専門課程の科目に相当である。

4. 学生アンケートについて

(伊藤先生)先生方のご苦労が伺える。一方的にしゃべる授業より質問しつつ、簡単な模擬テストをしながらやっていく授業が求められているようだ。実技の展示においては、可能であればスマホなどで動画を撮ってもらい、自宅でも観ながら練習できるようにしたらどうだろうか。また、就職後すぐにできるというのがシャンプーやカラーである。就職後、何もできない日が続くのは本人もつらいものがある。ある程度シャンプーやカラーができると離職に繋がらないと思う。シャンプーやカラーの実習を増やしていくのは良いことだと思う。

(小出先生)社会福祉等の授業やボランティアでの施術体験は、学生の職業に対する誇りにつながるとともに、地域の活性化にも貢献できると思う。是非、可能であれば積極的に取り組んでいてもらいたい。

(中澤先生)学生への最初の技術はWDで、小指や薬指の使い方が難しく、最初に嫌になってしまわないように工夫しながら指導している。今後は2年生の技術を1年生の目標となるよう、姉妹学級等で学生の士気を高めていきたい。

5. インターシップについて

実習は管理美容師の元で2名まで、時間も法律で決められていることのご理解をいただきつつ、今回の実習を行った。打ち合わせと実際当日伺って、食い違いがあったが学生もいたが、どの店舗の先生方も手厚く教えていただきありがたかった。自分の作品のスクラップブックを見ていただいたり、シャンプーや刈り上げを教えていただいたり、すぐ上の先輩が動きやすいように指示を出してくれたり、就職活動をしてきたかのような経験ができたようだ。

(伊藤先生)実習では、賃金や食事などはご遠慮させていただくと学校からも連絡はあるが、店舗によっては様々な対応をしているようだ。人手不足の店舗にとっては、願ってもない好機であるので、さまざまな方法でとどまってもらいたいと思うのは致し方ないが、学生にとって不公平に感じてもまずいのではないかと。店舗の皆さんに今一度ご理解いただけるよう、周知する必要があると思われる。

6. 平成30・31年度からの産学連携授業について

4月から支援サロンに参加していただき、カットとカラーの時間が大幅に増える。カット授業は4月にすぐスタートであるが、もう少し慣れたところで基礎ができたころに入れたほうがいいのではないかと。初の試みであり、カリキュラムも作成が進んでしまっているので、今年度の学生の様子を見て次年度の時期を検討する。

7. 学生の現況

外部講師からは過去の学生に比べて、学習意欲が高くなってきているとお言葉をいただいた。奨学金を利用している学生が5割近くいる中、親思いでバイトも頑張っている学生が多い。バイトで学習に支障が出てしまう学生もいるが学校としての手立てを何か考えてあげてもいいのでは？

小・中・高校生と手厚く上げてきているので、差が大きい学生に対し不安を取り除いて、辞めさせない教育を行っていく必要がある。

8. 業界から

(伊藤先生)現実的・慎重・先輩や後輩思いの若い人が増えている。大変ではあるが、学生の個性に合わせたカリキュラムで応用教育を行っていく時代になってきたのだと思う。

また、就職活動が速くなってきたので、ガイダンスの時期を検討したほうがいいのではないかと。

就職ガイダンスは、1年の終わりと4月の中旬くらいに行ったほうがいいのではないかと。

(小出先生)少子高齢化が進み、ほかの仕事でも人手不足で困っている。美容師の育成のためにも美容組合ではインターンシップや職場体験を率先して行っている。小学生や中学生からのあこがれがなくなっていくように動いている。また、国家試験を終えて、どの学生もたくさん学校で練習してきたであろうと感じるくらいに、落ち着いて自信をもってやっているように見える。今日のお話で思った以上に現実的で質素な学生が増えてきていると感じた。自信をもって仕事に臨めるよう、より一層サロンと学校がつながっていければいいと思う。